

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272700998		
法人名	有限会社 ダイワサービス		
事業所名	グループホーム 銀杏苑 いちいの館		
所在地	青森県三戸郡五戸町字銀杏木1番地45		
自己評価作成日	令和4年11月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

中庭の畑で野菜を育てて収穫し、調理をして食すところまで行っている他、苑内での掃除や洗濯、調理を行い、その日の日課に必ず関われる環境を作っている。また、自宅に居る時と同じように、自由に時間を作るよう、本人様の意思を尊重して活動に参加していただいている。
行事以外でも皆さんの意見を聞き入れて外出する機会を設け、外食やドライブ、散歩等で楽しみや季節を感じていただけるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは理念の見直しを行い、利用者や家族、地域との関わりを深めるための20項目の方針を掲げ、日々、利用者の心に寄り添う姿勢でケアサービスに取り組んでいる。
職員は利用者のこれまで大切にしてきた関わり等を把握し、思いに寄り添いながら、一人ひとりの望みや生きる支えを探ろうと努めている。また、感染対策をしながら、夏は苑庭でバーベキューやお盆の迎え火、秋にはさつま芋パーティーを行ったり、紅葉狩りのドライブに出かける等、工夫しながら利用者の楽しみや気分転換を図れるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「利用者様、家族様、地域の方々の喜びをわが喜びとする」のように、地域や苑内で、感謝の気持ちを忘れずにサービスを行えるようにしている。	ホームでは理念の見直しを行い、利用者及び家族、地域との関わりをより良いものにしようと、基本理念のもと20項目の方針を掲げ、日々のサービス提供に取り組んでいる。また、理念はホーム内のよく目に触れる場所に掲示し、職員は折々に自身を振り返り、理念を反映させた支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の自治会に加入し、祭りや花火大会に参加したり、テレビで町内の様子を見れるようにしている。	自治会に加入し、毎月ホーム便りを回覧してもらったり、隣家の住民や自治会長が運営推進会議のメンバーとして協力してくれる他、利用者と一緒に草取りの地域活動を行う等、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の福祉体験学習の依頼は来ているが、感染防止のため実行できていない。また、運営推進会議で認知症ケアについて報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域や役場関係者、隣家、家族代表と情報交換をしている。会議録作成後、出席者や入居者家族様へ送付している。	コロナ禍のため、運営推進会議は書面により開催しており、町の担当課や自治会長、隣家の住民、家族代表等がメンバーとなっている。また、メンバーの他、家族全員にも報告書を送付し、後日機会を見て意見や感想等を聴取している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他、月1回の地域ケア会議に出席し、町の担当課や地域包括支援センターの職員と情報交換をしたり、困難事例を伝えてアドバイスをいただいている。	町の担当職員が運営推進会議のメンバーとして加わっており、報告書を持参した時に意見等を聞いている。また、月1回の地域ケア会議に参加しており、他事業所や地域包括支援センターも含めて、情報交換や困難事例の検討等を行い、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や資料の閲覧、会議等で「NO拘束」に意識を持つようにしている。帰宅願望が強く、施錠等が必要な時には家族様と相談して行っている。	マニュアルや資料を基に定期的に研修を実施している他、委員会を設け、毎月の職員会議やケア会議の中で課題として取り上げている。また、外出傾向がある場合は、一緒に周辺を散歩する等の支援を行っている他、やむを得ず玄関の中扉の施錠を行う際は、家族の了解を得て行い、経過観察の中で見守りと見直しを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や会議で口頭で指導し、資料で学べるようにしている。また、日頃からお互いに声をかけ合うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を閲覧したり、その場での支援に関して調べ、学習できるようにしている。家族様が高齢等の理由により、アップルハートを利用して金銭管理等を依頼している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書、改定の資料を用いて行っている。来苑時や電話でも理解を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先へ意見箱を設置している。家族様の来苑時や電話連絡をした際に、意見や相談を受けて職員で共有している。	利用者の言葉に耳を傾け、表情や動作等から不満や体調の変化等を感じ取るように努めている。家族への連絡時には話しやすい雰囲気作りに努めており、利用者の様子を報告した上で意見等を出していただけるように働きかけている。また、毎月ホーム便りも発行し、利用者それぞれの暮らしぶりや健康状態をお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議や毎日の申し送り時に管理者や統括が参加をし、職員からの意見や提案を吸い上げて運営に反映させている。	両ユニット合同の職員会議を月1回開催し、身体拘束等6つの委員会の情報共有の他、年間計画に基づき内部研修も行っている。また、職員から改善案や提案等も出され、業務に反映できるように努めている他、年2回の個人面談も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や取得のための支給をしている。また、面談を行い、働きやすい環境を作ろうにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内・外部の研修(ZOOM)参加、看護やリハビリ等、多職種からの意見を聞ける環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議へ参加し、関連事業所間の交流を通して、情報を共有している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者、家族様と面談し、不安や要望を聞いている。ニーズに合わせたサービスが提供できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	思いや希望、不安等を話し合い、見学や体験をしていただき、解消できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報以外に本人と家族様と面談し、直接話をする中で、グループホーム以外も含め、一番相応しいサービスは何かを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物たたみ、食器拭き、調理手伝い等、できる事は一緒に行っていたい		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や連絡をする際は用件だけではなく、入居者の様子を伝え、家族様の様子や相談を聞いている。毎月苑新聞を発行し、生活を知っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受診付き添い以外にも、感染予防をした上での面会や、家族様と共に日中帯に一時帰宅等を行っている。	利用者や家族との会話から情報収集し、一人ひとりの馴染みの人や場所の把握に努めている。また、利用者の状況を見ながら、家族等と連絡調整し、日中に一時帰宅できるように支援した事例もあり、これまで大切にしてきた関わりを継続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士を隣席にしたり、レクリエーション時に一緒に参加していただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係は保たれていないが、相談があった際には対応できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース会議で状態を把握し、本人の希望や要望を話し合い、検討している。困難な場合には家族様からも意見をいただき、本人の意思決定を支援している。	職員は利用者と同じ目線で話に耳を傾け、利用者の視点に立って一人ひとりを理解するように努めており、調理の下拵えや盛り付け、工作等、できる事は自由に選んでもらっている。また、ケース会議等で利用者の状況を共有し、意見交換をしながら、統一した方針で支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族様、他施設職員と面談し、情報収集やアセスメントシートの確認をして反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や申し送りで確認し、気になる事は職員同士で情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体面、精神面等、毎月のモニタリングで計画を見直している。	毎月ユニット毎のケース会議の中で全利用者のモニタリングを実施しており、実施期間終了後の他、状態変化に応じた随時の見直しも行っている。また、利用者の個別の事情や環境等を理解した上で、利用者のしたい事を尊重する計画の作成を心がけており、利用者の希望を収集して、個別具体的な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に一日の様子を記入している。月末に評価して会議で話し合い、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々思いに沿ったケアを行っている。希望時は家族様との外出や自宅への一時帰宅の支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練では消防に参加していただき、保育園の訪問や学生ボランティアを受け入れている。現在は感染防止のため、行えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も本人や家族様の希望する病院の受診を継続できるように支援している。本人や家族様が希望した際には、協力医療機関にて受け入れるように支援している。	入居時に利用者のこれまでの受療状況を把握しており、通院方法や受診結果の伝達方法は家族等の納得を得ている。また、週1回の訪問看護もあり、日常の健康管理とかかりつけ医との連携を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算を算定しており、訪問看護が週1回あり、入居者の健康管理を行い、必要時の医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は連携室と情報提供を行っている。入院後も安心して治療を受けられるように支援し、早期退院ができるよう、連携室との連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化や看取り指針の説明をしている。本人や家族様の考えを含め、医療、看護、介護がその人らしい終末期を送れるように連携している。	重度化対応や看取りに関する指針を提示し、入居時に家族に説明をしている。ホームでは多職種間で連携を図り、利用者や家族の希望があれば、その人らしい終末期を送れるように体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、全職員が対応できるようにしている。定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ハザードマップを掲示し、緊急連絡網を作成して全職員で共有している。今後、地域住民との災害時の避難訓練を検討している。	年2回の昼夜を想定した火災避難誘導訓練の他、感染症と災害を想定して、年2回の業務継続訓練を実施している。また、感染対策として、防護服や手袋等、停電時の暖房用の反射式ストーブやポータブルトイレ等を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声がけや言動に気をつけ、一人ひとりに合わせた言葉がけをしている。	年間研修計画に接遇や個人情報保護法のテーマを設け、利用者一人ひとりを尊敬し、相手の立場に立った支援を心がけている。また、丁寧なケアで対応する姿勢、プライバシーを保護する心配り等をホームの20項目の方針に盛り込み、職員の日々のケアサービスの拠り所としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の仕草や表情、行動から思いを読み取り、一方的な支援にならないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ入居者一人ひとりの体調やペースに合わせた支援ができるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は訪問美容室を利用している。衣類は本人に選んでもらったり、一緒に選んだり、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や季節の物を取り入れた食事を提供している。できる事は一緒に手伝ってもらっている。また、食事形態は入居者に合わせ、刻みやトロミ、粥等の対応をしている。	食材提供業者の栄養士が献立を作成しており、菜園で採れた旬の食材等も取り入れながら、季節感あふれる食事を提供している。また、利用者は可能な範囲で調理や下拵え、盛り付けや後片付け等を職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎回チェックし、記入している。水分は必要に応じてチェック表を用いている。栄養士に献立を作成してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを行い、介助を要する場合には付き添い、確認している。就寝前には義歯を洗浄剤に入れ、清潔を保つようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を利用しており、時間や状態、仕草を見て声がけし、事前誘導を行い、トイレでの排泄につなげている。	排泄表に記録しながら、利用者個々に応じた事前誘導や見守りを行っている。職員は利用者の羞恥心や尊厳を傷つけない声がけを行い、できる事は自分で行えるよう、見守りに徹する姿勢で支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日乳製品の提供をしている。水分を多めに摂ってもらったり、繊維質の多い食物を取り入れている。状態に応じて、医師より薬の処方をお願いしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴日と時間は決まっているが、入居者の体調や希望に合わせて、臨機応変に対応している。	基本的に週2回は入浴できるようにしており、利用者それぞれの好みの湯加減で提供している。拒否がある場合でも無理にすすめず、時間を置いたり、別な日に声がけする等の工夫をしており、必要に応じて、系列のデイサービスのリフト浴も利用できる環境である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	離床は促すが、休息は自由に行っている。夜間よく眠れるよう、日中の活動を増やしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情を綴じ、職員で共有している。変化が見られた際には医師や訪問看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の力量に合わせて手伝いをいただき、役割を持って生活が送れるように支援している。体操やレクリエーション、屋外での畑仕事や草取り等、気分転換も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の希望には対応できていないが、できる限り外出の機会を持つようになっている。行事で入居者の希望を取り入れている。また、希望により、家族と外出していただいている。	天気の良い日は近所を散歩したり、感染対策をしながら近郊の公園に出かけている他、周辺をドライブして気分転換を図っている。また、苑庭では、夏はバーベキューやお盆の迎え火、秋は焼き芋をする等、戸外に出て季節の移ろいを感じられるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で所持している方もいるが、現在、買い物には出かけられていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、電話や手紙等でのやり取りを支援できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事や季節に合った壁画を一緒に作成し、掲示して季節を感じていただいている。湿度や温度調整を行い、快適に過ごしていただけるように支援している。	広いホールには食卓や畳敷きの小上がりがあり、家庭的な雰囲気である。また、行事や季節に合った作品等も飾っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには畳やソファを配置し、自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持って来てもらい、自由に配置をしたり、写真を貼っている。	入居時から馴染みの物の持ち込みを働きかけており、テレビや時計、昔使っていた鏡等を飾っている人もいます。また、持ち込みの少ない利用者には、写真や手作りの作品等を掲示する等、居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを配置している。トイレや居室等の場所を分かりやすく表示している。		